



R3. 1. 28

今月のキーワード 『話すこと[やり取り]』 と 『話すこと[発表]』

来年度（2021 年度）から中学校で新学習指導要領が実施されます。英語は国際的基準である CEFR（「ヨーロッパ言語共通参照枠」）をもとに目標が検討され、特に『話すこと』は [やり取り] と [発表] の 2 領域に分けられたことが特徴の一つとなっています。今回は、『話すこと』に焦点を絞り、新学習指導要領で示されている内容の実現へ向けた指導について確認したいと思います。

『話すこと』における [やり取り] と [発表]

新学習指導要領では、『話すこと』は、『話すこと [やり取り]』と『話すこと [発表]』に分かれています。これまでも、『話すこと』として、スピーチやプレゼンテーションといった、あらかじめ話す内容を考え、整理し、英文にして、練習して発表するような活動はしばしば行われてきましたが、**互いの考えや気持ちなどを伝え合う対話的な言語活動を一層重視する観点から、『話すこと [やり取り]』の領域が設定**されました。



<中学校> 話すこと [やり取り] より抜粋

- 関心のある事柄：簡単な語句や文を用いて**即興で伝え合う**。
- 日常的な話題：事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。
- 社会的な話題：考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用い、述べ合う。

<中学校> 話すこと [発表] より抜粋

- 関心のある事柄：簡単な語句や文を用いて**即興で話す**。
- 日常的な話題：事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話す。
- 社会的な話題：考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて話す。



「即興で」という記載があることから分かる通り、**[発表]において、話す内容をあらかじめ考えておき、練習したり暗記したりした上でならば話せるということだけでは不十分であることに注意**してほしいと思います。

スピーチ活動などをする際、自分であらかじめ考えた内容を準備し、練習して発表に臨んでいると思います。「即興性」を育てるためには、発表の際に聞き手側からの質問を入れるなど、双方向でのやり取りを取り入れていくことをおすすめします。



パフォーマンス・コンペティション（石橋中）



今年は、下都賀地区の英語スピーチコンテストや市の English Forum などのイベントが開催されなかったことから、先日、石橋中学校では、有志参加によるEPC（English Performance Competition）を放課後に開催しました。MCはALTのRobert先生、審査は坂口校長先生と英語科の先生方全員で行いました。生徒の自主性と創造性が活かされた、活気ある活動となりました。



Thank you for coming today.
Let's enjoy the first English
Performance Competition.



英語の歌を歌ったり・・・



自分の思いや考えを伝えたり・・・



落語をしたり・・・



Japanese "Arigato"
sounds like "Alligator".

生徒のパフォーマンスの合間には、石橋中の先生方がビデオで出演してくれました。
例) 英語を使いながら、理科の実験をする場面



このような活動は、生徒の「伝えたい」「分かってもらいたい」と思う気持ちを高め、よりよい伝達方法を考えたり、自主的に何回も繰り返し練習したりする行動を促すことにつながっていると感じました。今後、さらにバージョンアップしたパフォーマンスが見られることを期待しております。

新学習指導要領では、表現をより適切でより豊かにする目的で、これまでは高等学校の教育課程で学習していた現在完了進行形や仮定法、原形不定詞などの文法事項が加わります。英語を使う目的や場面、状況を意識させることによって、意味を伴った生きた言語活動となります。文法事項を教え込む（子どもにとって受け身の学習）ではなく、主体的に学ぼうとする力を育てられるよう、教科部会等で新学習指導要領の開始へ向けた準備をお願いします。

文責：学校教育課 稲葉 亜希恵